

令和 7 年度学校評価実施計画

学校名	大分県立別府支援学校鶴見校
前年度評価結果の概要	○人や物とのかかわりを大切にした肢体不自由教育の充実 ・幼児児童生徒の学びに向けた指導内容等の整理及び系統性の確立。 ○関係機関と連携した安全・安心な学校づくり ・別府発達医療センターとの連携に係るさまざまな取組について、改めて検証・改善を図り、連携体制を一層密にしていく。 ・児童生徒・保護者に対して、より質の高い情報の提供を行っていく。 ○幼児児童生徒と向き合う時間確保のために３校で連携した働き方改革の推進 ・幼児児童生徒と向き合う時間のための会議、行事などの具体的な業務の削減 ・業務の協力体制の構築

学校教育目標	中期目標	重点目標
幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた創意工夫のある教育実践をとおして、一人一人が豊かな人間性を持ち、自立と社会参加を目指し、生涯を通じて充実した生活を送るために必要な「生きる力」を育む	○幼児児童生徒一人一人の主体的な学びを保障するために、医療・福祉・教育等関係機関と連携を深める。 ○火山噴火、地震、火災等の自然災害時及び幼児児童生徒の緊急時に対し、生命を守るための安全教育を充実させる。	○人や物とのかかわりを大切にした肢体不自由教育の充実 ○関係機関と連携した安全・安心な学校づくり ○幼児児童生徒と向き合う時間確保のために働き方改革の推進

※ ＰＬ：プロジェクトリーダー、ＳＬ：サブリーダー

重点目標	達成（成果）指標	重点的取組	取組指標	ＰＬ ＳＬ
人や物とのかかわりを大切にした肢体不自由教育の充実	【校内研究】 ・「校内研究は学校教育目標や育成を目指す幼児児童生徒像の達成と運動している」の回答が３以上（４段階） 【教育課程の改善】 ・教職員アンケートで「学校教育目標を達成する観点から、指導内容の選択・編成、授業時数の配当及び指導の形態の選択について検討し、教育課程を編成している」の回答が３以上（４段階）	○周囲の人や物への関心を高めたり、他者への思いを伝えたりするなど、自立活動の授業改善と検証 ○教科及び自立活動の実践と検証による教育課程の見直し	【校内研究】 ・幼児児童生徒の目指す姿に向けた自立活動の指導内容や評価について提案授業を行い、成果や課題について検証を実施 【各学部１事例】 【教育課程の改善】 ・Ⅳ課程の教科の指導の成果と課題の検証 【年間３回】 ・個々の自立活動の課題を確認するとともに、課題に応じた授業作りに向けた研修の実施 【年間３回】	ＰＬ 研究主任 ＳＬ 学部主事 ＩＣＴ活用推進員
関係機関と連携した安全・安心な学校づくり	【関係機関との連携】 ・教職員アンケートで「外部専門家による助言を受け、幼児児童生徒の授業に活かすとともに、教育活動や個別の指導計画の改善につなげている。」の回答が３以上（４段階） ・保護者アンケートで「幼児児童生徒の個々の対応について、別府発達医療センターとの適切な連携が行われている」の回答が３以上（４段階） 【学校安全】 教職員アンケート・保護者アンケートで「児童生徒の健康や安全の維持に関する取り組みが適切に行われている」の回答が３以上（４段階） 【保護者連携】【学校理解】 教職員アンケート・保護者アンケートで「学校教育活動に関する情報が適切に提供され、学校と保護者の連携が図られている。」の回答が３以上（４段階）	○医療・福祉関係者、保護者等とのネットワークの強化 ○児童生徒本人・保護者の思いを取り入れた授業の構築 ○ホームページ・通信等による情報発信・保護者との情報共有 ○ホームページやその他通信手段を利用し、学校教育活動や進路・支援等に関する情報を提供するとともに、保護者との情報共有の充実を図る。	【授業改善】 ・別府発達医療センターのPT・OT・STからのアドバイスを活用した授業改善 【各学部１事例以上】 【防災】 ・別府発達医療センターとの合同避難訓練、緊急時対応訓練等の実施及び検証 【年間２回以上】 【ケース会議】 ・ケース会議等の実施及び参加 【年間２回】 【保護者連携】 ・保護者懇談で個別的教育支援計画をもとに児童生徒本人や保護者の教育的ニーズを確認 【７月まで】 ・児童生徒本人や保護者の教育的ニーズを取り入れた個別の指導計画（後期）の作成 【８月まで】 ・個別の指導計画への反映と授業実践 【１２月まで】 ・学年末懇談で授業実施後の評価を保護者と確認。次年度の個別の指導計画（前期）の作成 【２月】 【学校理解】 ・ホームページの定期的な更新 【月平均２回以上】 ・学校だより、学部通信の発行 【各年間３回以上】 ・進路だより、保健だよりの発行 【各年間２回以上】 ・保護者との連絡手段の拡充に向けた検討 【５月まで】	ＰＬ 研究主任 進路指導・支援主任 ＳＬ 教務主任 学部主事 特別活動・生徒指導主任 保健主任
幼児児童生徒に向き合う時間の確保を意識した働き方改革	【残業時間の削減】 前年度の平均残業時間を下回る 【子どもと向き合う時間】 個人で児童生徒のことを考えるまた小チームで児童生徒について話し合う時間の創出 具体的数値は未定	【残業時間の削減】 職場全体のタイムマネジメント（会議時間の削減など） 【子どもと向き合う時間】 会議時間等の削減した上で、チームで児童生徒のことを考える時間の創出	①業務改善委員会で『分掌・学部の業務の見直し』『会議・委員会の見直し』『会議参加メンバーの見直し』等を検討 ②実施状況をもとに、タイムマネジメントの視点で見直しながら実施（随時） ①１学期中に「小チームで児童生徒について話し合う」時間を創出するために削減（短縮）できないかを検討（７月） ②「校内会議の設定」について提案（９月） ③取組と改善を繰り返す（年度内）	ＰＬ 副校長 衛生推進者 教務主任 研究主任 学部主事